

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスぷらう		
○保護者評価実施期間	2025年11月10日		～ 2025年11月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間や活動場所が、子ども達にとって分かりやすく整えられており、安心して活動に取り組んでもらうことができる。特に部屋が多数あるので、活動の内容や子どもの状態に合わせて使い分けができる。	事業所内は、部屋の配置や物品の置き場所、掲示物等の視覚化・構造化を心がけ、使用・収納しやすいようにし、視覚過敏や気が散りやすい子どもにも過度の刺激にならないよう気をつけている。 第2活動室を設け幅広い用途で使えるように備えた。	子どもたちの個々の特性に応じた掲示物を用意していく。
2	特に自閉症スペクトラムやA D H D等、発達障害の子ども達それぞれの特性や個性に応じた支援が手厚い。	発達に関する様々な障害特性について、各種の研修に参加したり、関係者と情報交換したりして理解を深めたり、関係機関と連携して対応の仕方を工夫したりしている。 またその子の個性やクセにも考慮して、子ども達一人ひとりに対する支援の仕方をチームで検討し、対応するようにしている。	子ども達それぞれの強みを活かすために多彩な活動プログラムを充実させていく。支援チーム内での事例検討を行い対応力の向上を図る。
3	日頃から子どもの様子や状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができている。 WEBサービスを利用するようになり、放デイからの情報の発信と保護者からの反応が良くなっている。	子どもについての情報共有は、放デイの利用時にWEBサービスを使った連絡帳での定期的な情報交換の他、必要に応じて電話やメールなども利用して、頻繁に行うようにしている。そうした中で、学校からの申し送りや情報提供されたこと、健康状態や発達の様子について気になること等も保護者と共有し、共通認識・共通理解に努めている。	専門機関や関係機関との連携を強めていきたい、特に子どもが複数の放デイを利用している場合、関係する他の放デイや相談支援事業所との情報共有が必要である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言、研修等を受ける機会を設ける必要があると思われる。	日々の活動が忙しく、その後の連携するところまでの余裕がなかった。	近隣の児童発達支援センターと連携を取り、スーパーバイズや研修を受ける機会を作って行っていく。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと一緒に活動する機会がなかなか設けられない。	平日の活動の中では活動時間が足らず、交流の機会を用意することが出来ずにいた。 平日にとらわれず、長期休みなどに範囲を広げて考える必要があった。	長期休みの際に地域の活動に参加したこともあるが、回数を増やしたり、放課後児童クラブや児童館を訪問して一部の活動に参加させてもらうなど、交流の機会を増やしていく。
3	きょうだい向けのイベントについて保護者から要望はあるが、イベントの開催等の交流の機会がもうけられずにいる。	きょうだい支援についての知識や情報が少なかつたため。	きょうだい支援を行っている事業所の取り組みを参考にし、可能なところから取り組んでいく。